

# 第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

総合研究大学院大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構



## (I) 教育に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 教育の成果に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「国際的通用性を養うために、基盤機関のもつ国際的研究センターとしての環境を活用するとともに、国際的に認知された学術雑誌・刊行物での論文発表、国際的な会議での研究成果発表を促進」について、各基盤機関が国際的な研究拠点であることを生かして、学生が国際会議へ参加することを積極的に奨励している。また、平成18年度からは海外学生派遣事業を実施しており、平成19年度末までに27名の学生が派遣されており、この事業の報告書内のアンケートには、派遣事業が博士の学位取得に向けて有効である旨の回答が寄せられ、学生への教育効果が高いことが伺われることから、優れていると判断される。

#### ② 教育内容等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

**<特記すべき点>****(優れた点)**

- 中期計画「学生の意見を反映した教育体制の検討」について、在校生アンケート、評価・改善タスクフォースやアカデミックアドバイザーにより、学生の意見を丁寧に聴取したことは、在校生アンケートに多くの学生が専門科目について「満足している」と回答していること等から、優れていると判断される。

**(特色ある点)**

- 中期計画「(世界的なレベルで国内外で活躍できるための国際的通用性を涵養するために、次の措置を講ずる。) ①基盤機関における国際的なセミナーなどへの参加を奨励」について、当該大学の基盤機関である 4 つの大学共同利用機関法人及び 2 つの独立行政法人が設置する 18 の研究所その他の機関には、多くの国内外の研究者が集まっており、そこで実施されているセミナー等での発表、聴講、運営補助等を学生に奨励していることは、特色ある取組であると判断される。

**③ 教育の実施体制等に関する目標****【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

**④ 学生への支援に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」であることから判断した。

**<特記すべき点>**

**(優れた点)**

- 中期計画「学生の個別事情に応じた教育課程と研究時間の調整」について、早朝や夜間の講義など配慮の行き届いた教育を実施し、社会人や留学生など学生の事情に合わせた研究指導体制としたことは、優れていると判断される。

**(Ⅱ) 研究に関する目標**

**1. 評価結果及び判断理由**

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

**2. 各中期目標の達成状況**

**① 研究水準及び研究の成果等に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的

に判断した。

## ② 研究実施体制等の整備に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### (特色ある点)

- 中期計画「(学生の研究環境を整備するとともに、研究成果を公表するために、次の措置を講ずる。) ①基盤機関が有する施設・設備の有効利用」及び「②学生の学会等における積極的な研究成果の発表」について、基盤機関との間で設備利用に関する覚書を締結し、学生が各基盤機関の所有する高度な研究設備、環境を利用できるように整備したこと、また、学生の英語によるプレゼンテーション能力を高めるためのプログラム等が設けられていることは、特色ある取組であると判断される。

## (Ⅲ) その他の目標

### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1 項目）が「良好」であることから判断した。

#### 2. 各中期目標の達成状況

## ① 社会との連携、国際交流等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

### ＜特記すべき点＞

#### （優れた点）

- 中期目標で「社会的に重要な問題に対して戦略的な基礎研究を展開し、その成果を一般市民にわかり易く伝えて社会への成果還元を図る」としていることについて、地域交流イベントであるサイエンスカフェの参加者に対して行われたアンケート調査の結果には、地域住民からの継続要望や好意的な意見が寄せられていることから、優れた取組であると判断される。

#### （特色ある点）

- 中期計画で「神奈川県下の国公立大学間の学術交流協定の拡大と有効な運用」及び「各専攻の有する学術的な国際性や大学本部が位置する湘南国際村の環境を活用し、国際交流の充実を図る」としていることについて、国際シンポジウムやセミナー等の国際交流に加えて、私立大学、国立大学法人等とも学生交流が活発である点は、特色ある取組であると判断される。